

米の安定供給等を求める意見書の提出について

2025年11月19日

須賀川市議会議長 佐藤 暲二 様

請願者

団体名 福島県県南農民組合
代表者 組合長 大竹利男



紹介議員

堂脇 明奈

【請願趣旨】

政府は、米価の上昇が「需要に対して生産が不足していたことが要因」とする検証結果をまとめました。国は米不足をようやく認め、米の増産に踏み切ることを表明しましたが、新政権になり、増産から一転、需要に応じた米生産が原則・基本との考えを示しました。

気候危機が深刻化する中、農家は毎年、米の作柄を心配し、同時に価格下落への不安も広がっています。これまで国は需給に対する責任を放棄し、生産者にその責任を押し付けました。その結果、米をつくりたくても作れない、米を作り続けることができない、後継者がいないなどの状況を招き、2000年代以降、米農家は120万戸以上が減少しています。消費者は「安心して日本の米が食べ続けられる」、農家は「安心して米をつくり続けられる」、そうした食糧政策の実現が求められています。

米の減産策から増産策に転換し、農家が意欲を持って生産できるようにセーフティーネットとして価格保障・所得補償政策を確立するべきです。さらに中山間地への支援、新規就農者支援の拡充など、抜本的な政策転換に国が踏み出すときです。農家の収入を支え、国民の食糧を守る政策が求められています。

つきましては、下記事項について国に意見書を提出するよう求め、地方自治法第124条の規定により請願を提出します。

【請願事項】

- 1 米の増産策を進め、国を挙げて十分な備蓄を確保すること。
- 2 農家が安心して米を生産し、国民に安定供給できるよう農産物の価格保障、所得補償政策を確立すること。



米の安定供給等を求める意見書（案）

政府は、米価の上昇が「需要に対して生産が不足していたことが要因」とする検証結果をまとめました。国は米不足をようやく認め、米の増産に踏み切ることを表明しましたが、新政権になり、増産から一転、需要に応じた米生産が原則・基本との考えを示しました。

気候危機が深刻化する中、農家は毎年、米の作柄を心配し、同時に価格下落への不安も広がっています。これまで国は需給に対する責任を放棄し、生産者にその責任を押し付けました。その結果、米をつくりたくても作れない、米を作り続けることができない、後継者がいないなどの状況を招き、２０００年代以降、米農家は１２０万戸以上が減少しています。消費者は「安心して日本の米が食べ続けられる」、農家は「安心して米をつくり続けられる」、そうした食糧政策の実現が求められています。

米の減産策から増産策に転換し、農家が意欲を持って生産できるようにセーフティーネットとして価格保障・所得補償政策を確立するべきです。さらに中山間地への支援、新規就農者支援の拡充など、抜本的な政策転換に国が踏み出すときです。農家の収入を支え、国民の食糧を守る政策が求められています。

以上、地方自治法第９９条の規定により意見書を提出いたします。

【請願事項】

- 1 米の増産策を進め、国を挙げて十分な備蓄を確保すること。
- 2 農家が安心して米を生産し、国民に安定供給できるよう農産物の価格保障、所得補償政策を確立すること。

令和 年 月 日

提出先

衆議院議長 殿
参議院議長 殿
内閣総理大臣 殿
農林水産大臣 殿